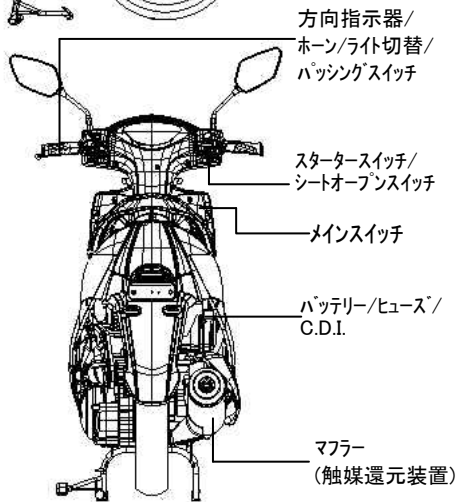
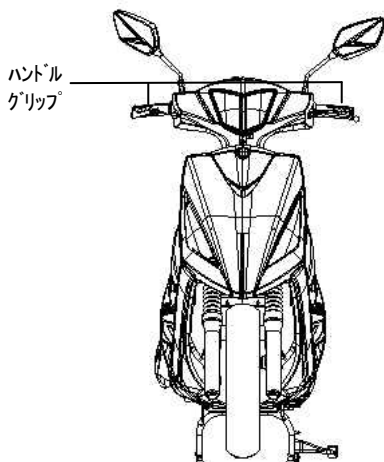
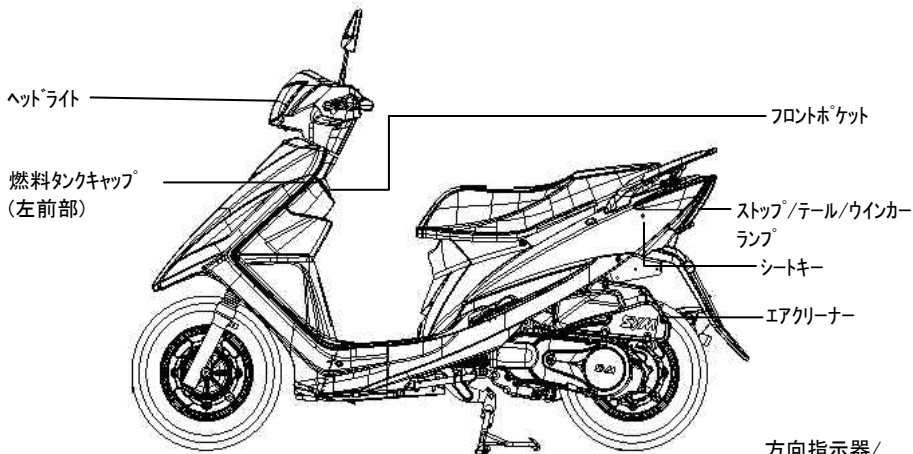
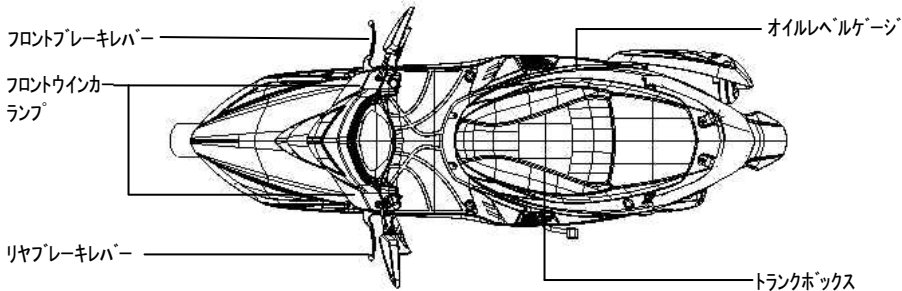


1. 内容	1
2. SYM車の保証	3
3. メンテナンスレコード	4
定期点検整備の記録	4
その他 臨時整備の実施記録	5
油脂液類・消耗品の交換記録	6
SYMからのおすすめ点検整備記録	9
4. コントロールロケーション	10
5. ご乗車の前に	11
環境汚染防止のために以下の事にご注意下さい	11
純正スペアパーツの使用	11
安全運転	12
ドライビング	13
6. 各種機能の使い方	15
メーター	15
イグニッションスイッチの操作	17
各種スイッチの使い方	18
シートオープナー	19
フロントボックス	19
ヘルメットフック	19
フューエルキャップ	19
ラゲッジボックス	20
ブレーキ	20
エンジン始動要領と注意事項	20
正しい走り方	21
スロットルコントロール	21
車両の停止及び駐車	21
7. 乗車前の点検とメンテナンス	22
日常の点検	22
ガソリンの点検	22
エンジンオイルの点検と交換	22

ギヤオイルの点検	23
ドラムブレーキの遊び点検と調整	23
ディスクブレーキの点検	24
スロットルバルブ遊び調整	25
バッテリーの点検とメンテナンス	25
タイヤの点検	26
フロントサスペンションの点検	26
ヒューズの点検と交換	27
ヘッドライト及びリヤライトの点検	27
ブレーキライトの点検	27
方向指示器とホーンの点検	28
ガソリン漏れの点検	28
車両各部の潤滑系機構の点検	28
スパークプラグの点検	28
エアクリーナーの点検	29
8. こんなときは	30
エンジンが始動しないとき	30
9. 排出ガス抑制システム	31
蒸発ガスコントロールシステム	31
二次空気供給システム	31
触媒還元装置	31
ブローバイガス還元システム	31
10. 排出ガスの減少とガソリンの節約	32
11. 排出ガス異常の原因	33
12. 定期点検スケジュール	34
13. 諸元表	35
14. あとがき	36

GT 125



このマニュアルでは、このスクーターの正しい使い方とともに安全走行、簡単な点検方法などをご紹介します。より快適で安全な走行のためにも車両の取扱いに慣れた方も独自の装備や取扱いがありますので、必ずこの取扱説明書をお読み下さい

お買い上げの時にはこの説明書をもとに以下の事について SYM 特約店より説明をお受け下さい。

- 正しいスクーターの使い方
- 保証内容及び保証期間
- 乗車前の点検とメンテナンス

• 車両の仕様、その他の変更によりこのマニュアルの内容と実車が一致しない場合がございます。ご了承下さいませようお願い申し上げます。

ご愛用を感謝いたします

お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。新車の場合、最初の 300km 走行時にお買い上げの SYM 特約店に車両をお持込のうえ、初期点検をお受け下さい。その後は、走行 1000km 毎に定期点検を SYM 特約店で行ってください。

環境汚染防止の為に以下のことにご注意ください

1. 使用ガソリン: レギュラーガソリンを使用して下さい
 2. エンジンオイル: SAE10W-40 API SH/CD または同等以上のエンジンオイルを使用して下さい。
 3. 定期メンテナンススケジュールにしたがって、定期的な点検とメンテナンスをお受け下さい。
 4. 環境汚染防止のためにも、排気系統の改造は絶対にしないで下さい。
 5. 注意事項: 点火システム、充電システム、燃料システムは排気ガス制御システムの正常な作動に関係します。
 6. エンジンがうまく作動しない時は、SYM 特約店に車両をお持込になり、点検修理を依頼して下さい。
- **必ず無鉛レギュラーガソリン(オクタン価 90 以上)をご使用下さい。**

純正スペアパーツ

二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性はもともとのデザインが要求するものに適合する必要があります。"SYM 純正スペアパーツ"は現二輪車に使用された物と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通じて生産される"SYM 純正スペアパーツ"を SYM 特約店からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用した場合はメーカー保証の対象とはなりません。またトラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

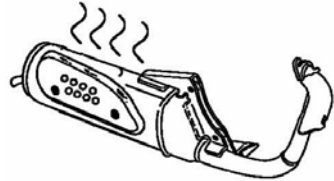
安全運転

走行時にはリラックスして、運転に適切な服装である事が重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。一般的に、多くの人は新車購入時にはとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを引き起こしやすくなります。

忘れないで！！

- ヘルメットは必ず着用して下さい
- 走行中は携帯電話を使用しないで下さい
- 制限速度を守って下さい
- 定期点検とメンテナンスを実施して下さい

マフラー高温注意！！



⚠ 警告！！

- 二人乗りをする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いて下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンス時は火傷に注意して下さい。また、駐車する場合もほかの人がマフラーで火傷をしないように十分に注意して駐車して下さい。

ドライビング

運転姿勢:

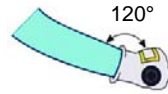
- 走行に当たっては身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要な時に素早く反応できるように常に心がけて乗りましょう。運転者の姿勢は安全運転に大きく影響します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られやすくなります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険ですでおやめ下さい。

正しい姿勢

間違った姿勢



グリップ内側より指一本分開ける



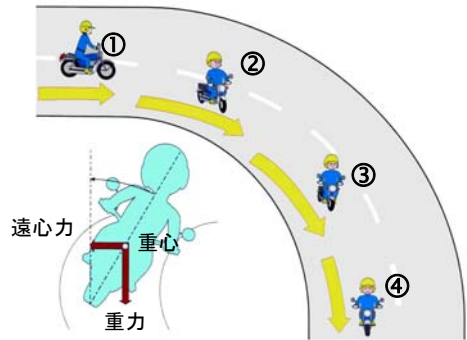
腕の角度

カーブ走行時のポイント

- カーブを曲がる時には運転者と車体が同一方向に傾けるとターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車体を傾けないと不安定になります。

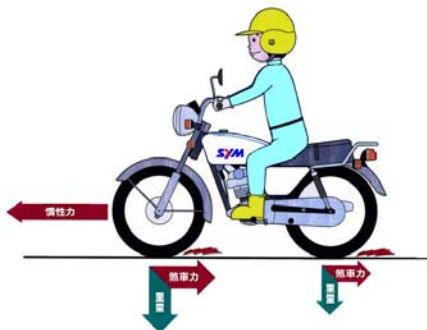
カーブ走行要領:

- ①カーブ手前でしっかり減速する
- ②カーブ走行中は速度を一定に保つ
- ③カーブを出る時は適度に加速し、安定走行を保ちましょう
- ④カーブを出た後は前後の安全を確認してから加速しましょう



ブレーキの要領

- ブレーキをかける時は、前後ブレーキを同時にかけましょう。二輪車の性格上、片方だけかけると不安定になり、転倒しやすくなります。車体をまっすぐに保ち、急ブレーキは避けて下さい。急ブレーキはタイヤロックを招き、大変危険です。



悪路走行時の注意点：

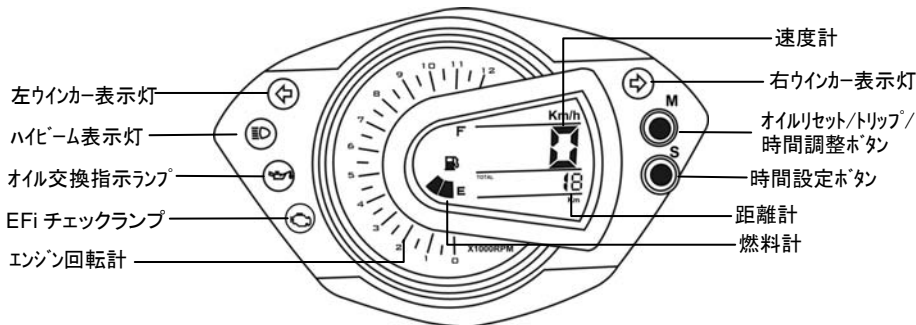
- でこぼこ道、未舗装道路、路面変化の激しい山道では不安定な走行となりがちです。スムーズに走行できるように予め道路状況を把握してスピードを落とし、姿勢の安定を保ち、肩の力を抜いてハンドル操作をしましょう。

ご注意

- ウエス等の燃え易い物をホテイクバーとエンジンの間に置かないで下さい。火災の原因になります
- 指定以外の場所に荷物を置かないで下さい。車両を傷める原因になります
- フロントボックスに荷物を入れ過ぎないで下さい。ハンドル操作に影響を及ぼします
- 荷物を積むと、積まない時に比べてハンドルの感覚が変わりますから注意しましょう。積みすぎるとハンドルがふられ、運転を誤る事があるので、注意しましょう
- スクーターの改造はその構造や性能に影響を与え、寿命が短くなる恐れがあります
また、保安基準に適合しない改造は絶対にしないで下さい。改造されたスクーターは保証修理対象外になりますので、ご注意ください。

メーター【以下の説明は SYMG T125 シリーズの基本操作です。各モデル仕様により異なります】

GT125



オイル交換表示灯

エンジンオイル交換指示灯はオイル交換時期お知らせします、指示灯でお知らせします、最初の1000KM くらいに、指示灯は点灯します、それは検査もしく交換時期お知らせします。交換されていない場合の不具合は保証対象外になりますので、ご注意ください)エンジンオイル交換後は“M”ボタンを長押しする事でこの表示灯は消灯し、リセットが完了します。車輛は1000KM ごとに検査が必要です、状況によって足したりしてください、3000KM ごとにオイルを交換してください。

トリップメーター

1. 総走行距離と区間走行距離の表示を切り替える事ができます。
2. メインスイッチ“ON”した後に“M”ボタンを押すとオドメーター、トリップメーター、時間と表示を切り替える事ができます。
3. トリップメーター表示時に“S”ボタンを長押しするとリセットができます。

時間設定

1. 12 時間制で時間の設定ができます。
2. メインスイッチを“ON”すると12 時間表示で時間と分が表示されます。
時刻を合わせる時は車両を停止させて、“S”ボタンを長押し(2 秒以上)すると時刻設定モードになります。この時に“S”ボタンを押すと設定の切替モードになります。(押す毎に時間→十の位の分→一の位の分)それぞれのモードで“M”ボタンを一回押すごとに数字は1 ずつ増えます。設定が出来たら“S”ボタンを長押し(2 秒以上)するとセットされます。

スピードメーター

走行中の速度を表示します。法定速度を守りましょう。

距離計

走行距離を表示します。オイル交換指示ランプが点灯したら交換して下さい。

ハイビーム表示灯

ヘッドライトをハイビームにした時に点灯します。

ウインカー表示灯

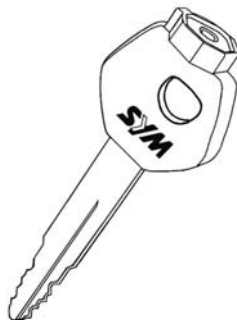
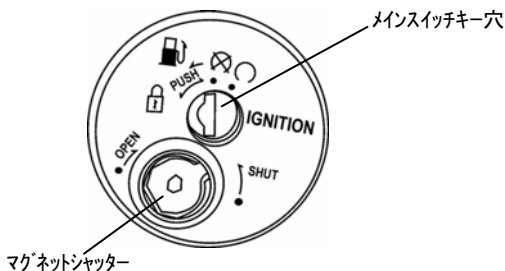
ウインカーを操作した時に右、または左の表示方向を点滅させて表示します。

燃料計

イグニッションスイッチが“OFF”位置では表示しません。

イグニッションスイッチが“ON”位置で燃料残量を表示します。“E”位置に近づいたら早めに給油して下さい

イグニッションスイッチの操作



マグネットシャッターキー

マグネットキーシャッター

- 磁石式の鍵で、マグネットキー部をマグネットキー穴にセットし、左に回すとキー穴のシャッターが閉じます。
- メインスイッチを使用する時は右に回すとシャッターが開きます。

メインスイッチ



"スタート" 位置

この位置でエンジンは始動できます
キーは抜き取る事はできません


"ストップ" 位置

エンジンをかけない時、止める時に使います
キーは抜き取る事が出来ます



"タンクキャップオープン" 位置

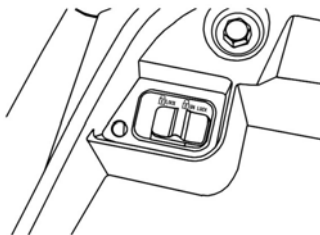
この位置でタンクキャップが開きますキーは " " からこの位置まで直接回す事が出来ます
放すと " " 位置に戻ります

"ハンドルロック" 位置

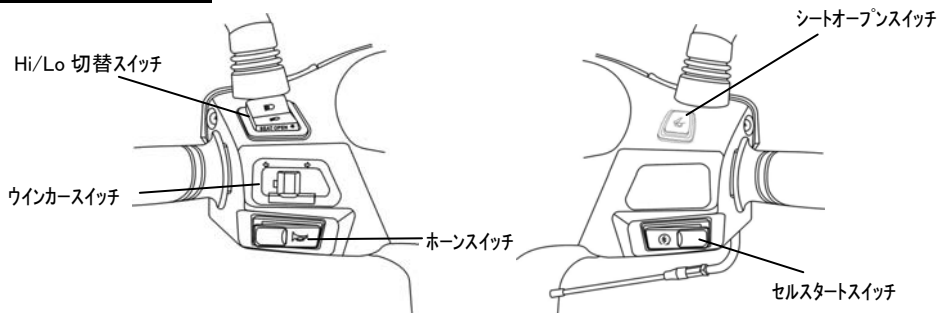
キーを押してから回して下さいハンドルがロック
されますキーは抜き取る事が出来ます。
ハンドルロックを解除する時は " " 位置まで
回して下さい。

防盜スイッチ

このスイッチはトランクボックス内にあります。
スイッチを " LOCK" にセットすると
エンジンは始動出来なくなります。
始動する時はスイッチを " UN LOCK" に
して下さい。
スイッチをセットした後はシートを必ずロックして
下さい。



スイッチの使い方



シートオープンスイッチ



メインスイッチが“ON”位置でこのスイッチを押すとシートロックが解除されます

セルスタートスイッチ



スターターモーターでエンジンを始動する時にこのスイッチを使用します。

メインスイッチを“〇”位置にし、前輪又は後輪のブレーキをかけた状態でスイッチを押します。

⚠️ ご注意！！

- ・ 始動後はすぐにスイッチから手を離して下さい。セルを回し続けると故障の原因になります
- ・ 前輪か後輪のブレーキをかけていないと始動しない安全機構になっています

Hi/Lo 切替スイッチ



Hi ビーム



Lo ビーム (市街地、すれ違い時は Lo ビームをご使用下さい)

ウインカースイッチ

- ・ メインスイッチが“〇”位置の時にウインカースイッチを右、又は左にスライドさせると作動します。
- ・ 解除する時はウインカースイッチを押すと消灯します。



右ウインカーライト点滅は右に曲がる事を表します。




左ウインカーライト点滅は左に曲がる事を表します。

ホーンスイッチ



メインスイッチが“〇”位置の時にスイッチを押すとホーンが鳴ります。

シートロック

- 解除方法: 1. シートロックキー穴にキーを差込み、左に回してロックを解除します
2. メインスイッチを“ON”位置にして、シートオープンスイッチ  を押します
- 施錠方法: シートを押し下げて確実にロックして下さい

ご注意！！

- シートをロックする前にキーをボックス内から取り出した事を確認して下さい。
- ボックス内に荷物を入れ過ぎてロック解除が困難な場合はキーで開けて下さい。

フロントポケット

- 必要以上に荷物を入れないで下さい。ハンドル操作に影響を与えます
- 洗車する時は荷物を取り出して下さい。

ご注意！！

- ポケットの中の通気穴を塞がないで下さい。エンジンシステムに影響を与える恐れがあります

ヘルメットフック



- シートを開け、フックに掛けてからシートを閉めて下さい。

ご注意！！

- ヘルメットを掛けたまま走行しないで下さい。
車両を傷めたり、ヘルメットの機能低下にもつながります。

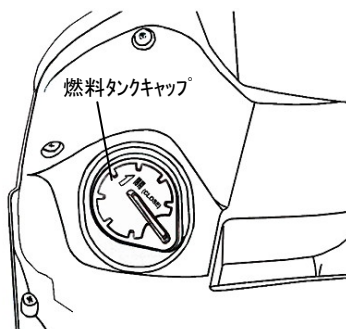


ガソリタンクキャップ

- メインスイッチキー穴にキーを差込み、“”位置から“”位置まで回すと自動的に開きます。
- 給油終了後は“カチ”と音がしてキャップがロックされるまで押し付けながら右に回して閉めて下さい。

ご注意！！

- 給油時はメインスタンドで車体の安定を確認し、火気は厳禁です。
- 給油時は勢よく入れると吹き返しを起こして危険です。
- 給油時は入れすぎないようにして下さい。車両に悪影響を与える恐れがあります。
- 無鉛レギュラーガソリンを使用して下さい。

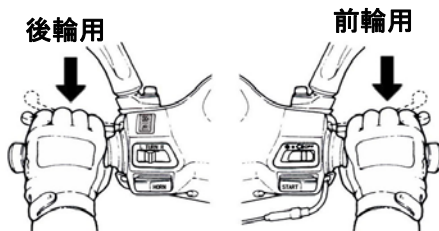


トランクボックス

- ・シート下にトランクボックスがあります
- ・シートを閉めた時は確実にロックされているか確認して下さい
- ・トランクボックスに貴重品は入れないで下さい。
- ・最大積載量: 10kg。
- ・エンジンの熱の影響を受けますので熱に弱い物は入れないで下さい。
- ・洗車時は荷物を取り出して下さい。

ブレーキ

- ・不必要な急ブレーキは避けて下さい
- ・雨の日はスピードを控えて早めのブレーキを心がけて下さい
- ・長時間連続してブレーキを使用しているとブレーキが過熱して効きが悪くなります。
- ・ブレーキは前後同時に使用して下さい。



⚠️ ご注意！！

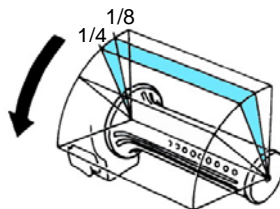
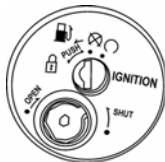
- ・前輪のみや後輪のみのブレーキ操作は不安定になり、転倒しやすくなります。

エンジン始動要領と注意事項

⚠️ ご注意！！

- ・エンジン始動前に必ずエンジンオイルとガソリンが充分にあるか、チェックして下さい。
- ・エンジン始動時は車両が飛び出さないように後輪ブレーキを必ずかけて始動して下さい。

1. イグニッションスイッチを “O” 位置まで回して下さい
2. スロットルグリップを回さずにブレーキをかけた状態でセルスイッチを押して下さい
3. エンジンが冷えている時は暖機運転して下さい



⚠️ ご注意！！

- ・スターターモーターを3~5秒回しても始動しない時は、スロットルグリップを 1/8~1/4 ほど回してスターターボタンを押して下さい
- ・スターターモーター保護の為、15 秒以上連続してセルを回さないようにして下さい
- ・スターターボタンを 5 秒以上押しても始動しない時は、10 秒以上経ってから再度始動して下さい
- ・長い間エンジンをかけていなかった車両や、ガソリンが空のままでは給油したばかりの車両はさらに始動しにくいです。何度もスターターボタンを押す必要がありますが、スロットルグリップは回さずに始動して下さい。
- ・エンジンが冷えている時はエンジンが暖まるまで数分かかります。
- ・排気ガスには有害物質(CO)が含まれます。換気の良い場所で始動して下さい。

【キックペダルでエンジンを始動する場合】

- ステップ 1 の後、スロットルグリップ回さず、キックペダルをキックして下さい。
- エンジンが冷えていて始動が困難な時はスロットルを 1/8～1/4 程、回すと始動しやすくなります。
- エンジン始動後はキックペダルを元の位置に戻して下さい。

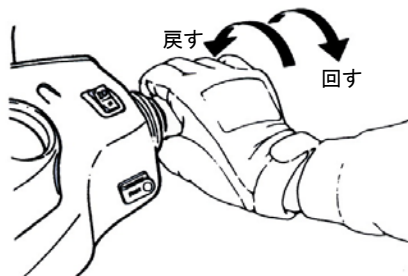
正しい走り方

- スタート前に方向指示器で合図を出し、後方の安全確認をしてスタートしましょう。
- スタート前にスタントが収納されているか確認してからスタートしましょう

スロットルバルブコントロール

回す：速度が速くなります。ゆっくり回しましょう。登り坂ではさらに回して力をつけましょう。

戻す：速度を下げます。すばやく戻しましょう



停車する時

1. 止まる地点が近づいたら
 - 早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車両に注意し、除々に左に寄りましょう。
 - スロットルを戻し、早めにブレーキをかけて下さい。
2. 完全に車両が止まったら
 - 方向指示器を元に戻してイグニッションスイッチを "~~ON~~" にしてエンジンを停止して下さい。

⚠️ ご注意！！

- 走行中はイグニッションスイッチを操作しないで下さい。思わぬ事故を招く恐れがあります。

3. エンジンが完全に止まってから車両左側より降りて下さい。交通の妨げにならない所で水平な場所を選び、メインスタンドで駐車して下さい。
 - 左手でハンドルを持ち、シート前先端を掴むか、右手でシート左下のパーキングハンドルを掴んでください。
 - 右足でメインスタンドを押し、地面にしっかりメインスタンドが安定するように降ろしてください。
4. ハンドルロックを掛けて、駐車後は車両盗難にあわないようにキーを必ず抜いて下さい。

⚠️ ご注意！！

- 走行後はマフラーが大変熱くなっています。通行人や子供が触れて火傷をしないように注意して駐車して下さい。
- サイドスタントは平坦では無い所や一時的に止める時に使用します。使用するには安定性を向上させるためにハンドルを左にして使用して下さい。
- サイドスタンドでの駐車後はエンジンを始動する前にサイドスタンドを上げて下さい。思わぬ事故の原因となります。

日常の点検

チェック項目	チェックポイント	
エンジンオイル	エンジンオイルの量は充分ですか？	
ガソリン	量は充分ありますか？(無鉛レギュラーガソリンに限る)	
ブレーキ	前輪	ブレーキングの状態は？(ブレーキレバーの遊び:10~20mm)
	後輪	ブレーキングの状態は？(ブレーキレバーの遊び:10~20mm)
タイヤ	前輪	空気圧は正常ですか？(標準1.75kg/cm ²)
	後輪	空気圧は正常ですか？(標準1人乗車2.0kg/cm ² 2人乗車2.25kg/cm ²)
ステアリングハンドル	ハンドルが異常に振動したり、操作が重くないですか？	
メーター、ライト、バックミラー	正しく作動しますか？ライトは点灯しますか？後方は確認できますか？	
車体各部締付状態	ボルト、ナットの緩みはありませんか？	
異常のあった箇所	以前のトラブルは直っていますか？	

⚠️ ご注意！！

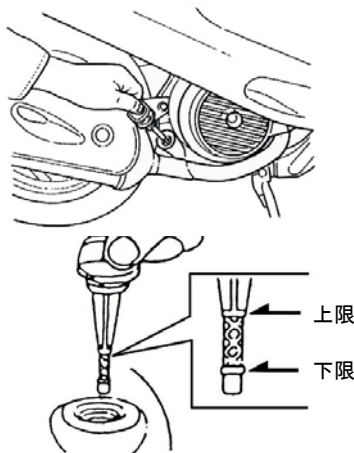
- 日常の点検で何か問題が見つかった場合はすぐに修理をして下さい。必要な場合はお買い求めの SYM 特約店に車両をお持ちいただき、修理を依頼して下さい。

ガソリンの点検

- 無鉛レギュラーガソリンを使用して下さい。メインスイッチを“(O)”位置にしてガソリン残量を確認して下さい。
- 給油の時はメインスタンドで駐車し、エンジンを止めて火気の無い状況で行って下さい。
- 給油時は上限を超えて給油しないで下さい。走行中にトラブルを起こしたり、排気ガス制御機構に影響を及ぼす恐れがあります。

エンジンオイルの点検と交換

- メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車両を置いて下さい。エンジンを止めて2~3分後にレベルゲージを抜いて、オイルを拭取って再度入れて下さい。(回転させない)。
- レベルゲージを抜き取りオイルレベルが上限、下限の間にあるかどうか確認して下さい。
- エンジンオイルが下限付近の時は補充して下さい
- エンジンオイルは SAE 10W-40 API SH/CD グレード以上のものご使用下さい。低グレード、低品質オイルをご使用の場合はメーカー保証の対象外です。
- オイル容量:1.0リットル
- 交換時:0.85リットル

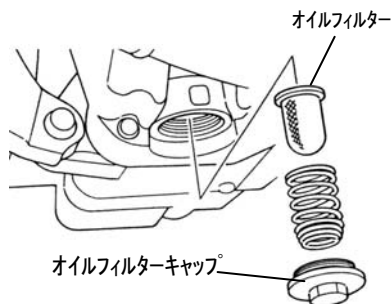


【オイルフィルター清掃】

- オイルフィルターキャップを開けてオイルフィルターを取り出します(ガソリン又はエアガンを使い清掃して下さい)。
- オイルフィルターはエンジンの右下にあります。

⚠️ ご注意！！

- 傾斜していたり、エンジン停止直後は正確なオイル量は確認できません。
- オイル交換時はフィルターも同時に清掃して下さい。



トランスミッションオイルの点検と交換

点検: 水平で安定した場所にメインスタンドを使用して車両を止めます。エンジンを止めてから 3～5 分待ってトランスミッションインフュージョンボルトを外し、ドレンボルトの下に計量グラスを置いてからドレンボルトを外して、出てきたオイルを計量してオイル量を点検して下さい。(全容量: 110cc. / 交換時: 100 cc.)。

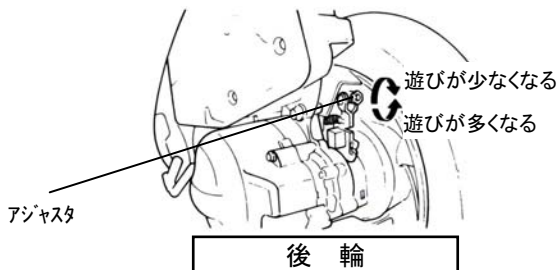
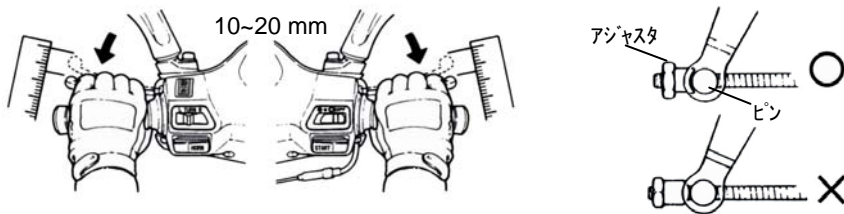
交換: エンジンを止め、メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車両を止めて下さい。インフュージョンボルトとドレンボルトを外してオイルを抜取って下さい。全て出ましたらドレンボルトをしっかり締めて下さい(新しいトランスミッションオイル(100cc)を入れて下さい。注入が終わりましたらインフュージョンボルトを締めて下さい(オイル漏れが無いかを確認して下さい))

※ 推奨オイル: SYM 純正ハイポイドギヤオイル(SAE 85W-140)

※ 外気温度が 0°C になる地域では SAE85W-90 をお使い下さい。

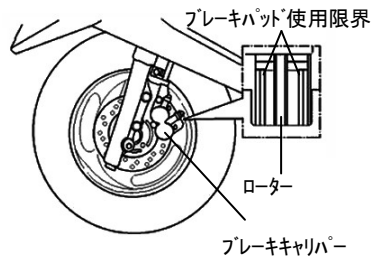
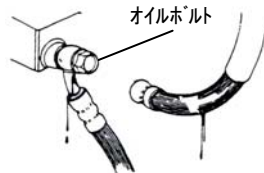
ドラム式ブレーキの遊びの点検と調整

- 後輪ブレーキアームのアジャスタを回してブレーキレバーの遊びを調整します。
- 調整後はブレーキを握ってみて、ブレーキの効き具合を確認して下さい。
- スケールなどを使って遊びを測って下さい。遊びは 10～20mm です。
- 定期的に SYM 特約店でブレーキの点検をして、ブレーキライニングの磨耗がひどい場合は交換して下さい
- アジャスタの凹部がピンにかみ合う位置にして下さい。(右下図参照)



ディスクブレーキの点検 (ディスクブレーキ装着車に適用)

- 目視にてブレーキラインの漏れ、損傷を確認して下さい。レンチ等の工具によりブレーキライン接続部に緩みが無いかを確認して下さい。ステアリングを回してブレーキラインに損傷を起こしそうな部分が無いかチェックして下さい。
- 万が一漏れや損傷があった場合は SYM 特約店にお持込になり修理を依頼して下さい。
- ブレーキを作動させ、パッドの磨耗をチェックして下さい。キャリパー後方から点検してブレーキパッドの使用限界部分がローターに当たっている場合はパッドを交換して下さい。
- 車両を安定した場所に停めて、オイルレベルが下限を下回っていないかチェックして下さい。

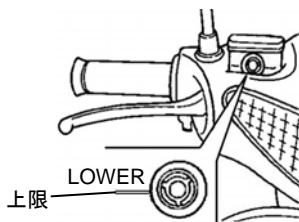


使用オイル: DOT 3

⚠️ ご注意！！

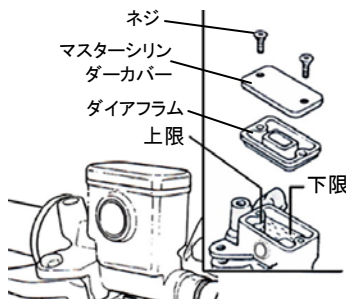
- 車両が傾いていると正確なオイル量が測れません。
- 化学変化の恐れがあるので種類の違うオイルを混ぜて使わないで下さい。
- 補充時は上限を超えない事。塗装面を傷めるので塗装部やプラスチックに付着させないように注意して下さい。

- スクルーを緩め、マスターシリンダーカバーを外す。
- リザーバー内に異物が入らないように異物や汚れを拭取して下さい。
- ダイヤフラムを外します。
- ブレーキオイルを上限まで補充して下さい。
- ダイヤフラムとマスターシリンダーカバーを取付ける。
- ダイヤフラムの向きと異物の混入に注意しながらカバーを閉めて下さい。



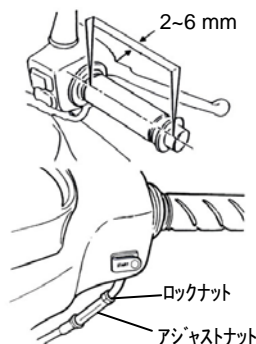
⚠️ ご注意！！

- 点検や補充時はエンジンを停止させてから行って下さい。



スロットバルブクリアランスの調整

- 2-6mmの遊びでクリアランスを調整して下さい。
- 調整時はまずロックナットを緩めてから調整ナットを回して調整します。調整後はロックナットを確実に締めて下さい
- 調整完了後はスロットルの回転、ハンドルの左右の動きに異常が無い、ケーブルが干渉していないかを確認して下さい。



⚠️ ご注意！！

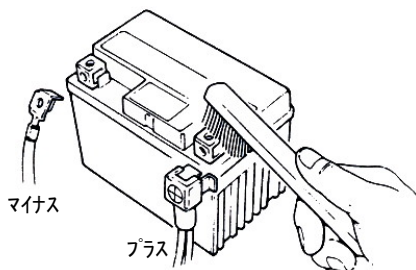
- 走行時のスピードコントロールに危険が無いように注意して調整して下さい。

バッテリーの点検とメンテナンス

- この車両には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しています。万が一異常があった場合は SYM 特約店にご相談下さい。
- バッテリー端子に汚れや腐食がある時は取外して清掃して下さい。
- バッテリー取外し手順：イグニッションスイッチを“~~ON~~”にして先にマイナスケーブルを外してからプラスケーブルを外します。

⚠️ ご注意！！

- 端子に白粉が付着している時はぬるま湯で清掃して下さい。
- 端子の腐食が激しい時は金ブラシかサントペーパーで清掃して下さい。
- 清掃後は端子にグリスを塗ってからケーブルを取付けて下さい。
- バッテリーの取付は取外しの逆手順で行って下さい。

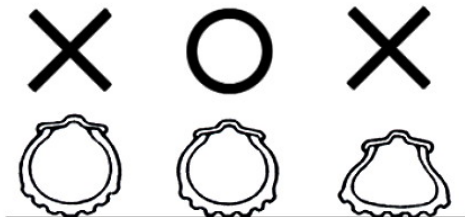


⚠️ ご注意！！

- 密閉タイプのバッテリーなので、キャップは絶対に外さないで下さい。
- バッテリーは長期間使用しないしていると自己放電します。長期間使用しない場合は車両から外して通風のある冷暗所に保管するか、マイナスケーブルを外しておくようにして下さい。
- バッテリーを交換する時はメインスイッチを“OFF”してから行って下さい。また交換する時は必ず密閉式メンテナンスフリーバッテリーで指定規格のものを使用して下さい。
- エンジン回転中はバッテリー端子を外さないで下さい。電気部品の故障原因となります。

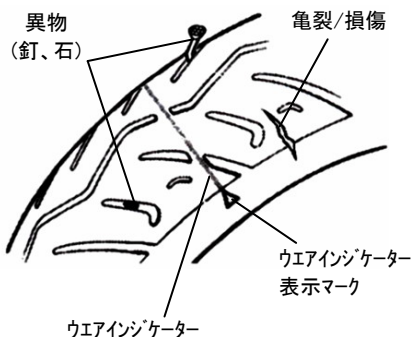
タイヤの点検

- エンジンを停めてからタイヤの点検や空気圧の補充を行って下さい。
- タイヤの接地面の形状が異常な時は空気圧ゲージでチェックの上、規定圧まで補充して下さい。
- タイヤの空気圧はタイヤが冷えている状態でエアゲージによりチェックして下さい。



標準タイヤ空気圧スペック参照

- 亀裂や損傷はタイヤ前面、横面まで確認して下さい
- 目視にてトレッド面の釘や小石を確認して下さい
- ウエアインジケータをチェックしてタイヤの磨耗具合を確認して下さい。
- ウエアインジケータが出てきたタイヤは交換して下さい



フロントサスペンションの点検

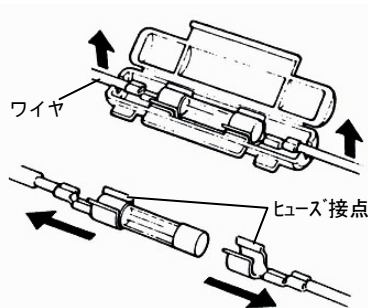
- エンジンを止めて、キーを抜いてから点検して下さい
- サスペンションに損傷が無い目視で確認して下さい
- ハンドルを上下に動かして異音や曲がりがないか確認して下さい。
- レンチ等でボルト、ナットの締め具合を確認して下さい
- ハンドルを上下、左右、前後に揺らして、ガタや過剰な抵抗、ハンドル取られがないか確認して下さい。
- ブレーキケーブル等でハンドルが取られないか確認して下さい。
- 万一異常があった場合はSYM特約店で点検修理をお受け下さい。



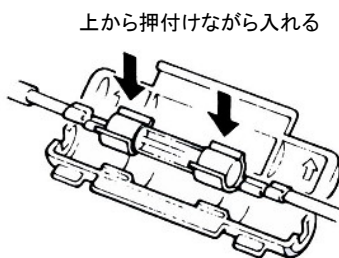
ヒューズの点検と交換

- メインスイッチ“OFF”で確認をします
- ヒューズはバッテリー付近のヒューズボックス内にあります。
- 外側キャップを開け、ヒューズボックスのフタを開けます。ヒューズの両端を取って上に引っ張って下さい。ヒューズの接合部からヒューズを取外して下さい。
- ライトが点灯しない場合などはヒューズが切れていないか点検して下さい。
- ヒューズが切れた時は指定の 15A ヒューズを使用して規格以上のフューズや銅線、鉄線を代わりに使用する事は配線の過熱、焼損の原因となるので絶対に使用しないで下さい。
- ヒューズを替えてもすぐに切れたり、原因不明で切れてしまう場合はお買い求めの SYM 特約店に車両をお持込いただき、点検してもらって下さい。

【取外し】



【取付】



フロント及びリアライトの点検

- イグニッションスイッチを“○”位置にしてエンジンを始動し、ヘッドライトとテールライトが点灯するか確認する
- ヘッドライトの明るさと方向を壁などに当てて確認して下さい
- ライトレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい

ブレーキライトの点検

- イグニッションスイッチを“○”位置にして前後輪のブレーキレバーを握って、ブレーキライトの点灯を確認する
- ブレーキライトレンズに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい

方向指示器とホーンの点検

- ・ イグニッションスイッチを “○” 位置にして下さい
- ・ 方向指示器のスイッチを作動させて前後左右のライト点滅を確認して下さい
- ・ 方向指示器のレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい
- ・ ホーンボタンを押してホーンが鳴るか確認して下さい

⚠️ ご注意！！

- ・ 後続車に注意を促すために方向転換や進路変更時は方向指示器を点灯させて合図して下さい
- ・ 方向指示器は、使用後直ちにボタンを押して解除して下さい。点灯させたままですと他の車両の迷惑になり、大変危険です。
- ・ 方向指示器ライト球は規定の規格バルブを使用して下さい。異なった規格のバルブを使用すると、正常な作動ができない恐れがあります。
- ・ 電装系の改造は負荷が大きいかかりショートの原因にもなり、車両焼失の恐れもあります。絶対にしないで下さい。

ガソリン漏れの点検

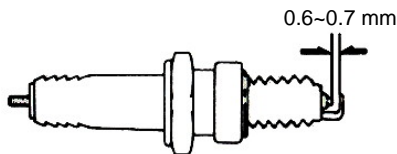
- ・ ガソリントank、給油口キャップ、ガソリンホース、キャブレターの漏れを確認して下さい。

車両各部の給脂状態の点検

- ・ 車体の各ピボット部分のグリスが充分か確認して下さい。
(例：メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーのピボット部等)

スパークプラグの点検

- ・ プラグキャップを外し、プラグを取外します。
- ・ 電極の汚れ、カーボン付着を確認して下さい
- ・ カーボン汚れは金ブラシで磨き、ガソリンで洗浄したのち、布でよく拭き完全に乾かして下さい。
- ・ 電極すき間を点検してキャップを 0.6～0.7mm に調整して下さい。(ギャップツールを使用)
- ・ スパークプラグは手で締めした後、さらにレンチで 1/2～3/4 回転締め付けて下さい。



警告：走行後はエンジンが大変熱いので、火傷に注意して下さい！

※メーカー指定規格のスパークプラグを使用して下さい（スペック表参照）

エアクリナーの点検

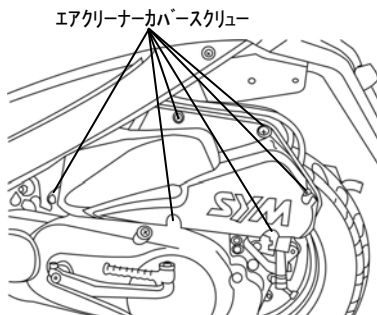
エアクリナーが汚れていると出力減少や燃費悪化の原因になります

〈取外し手順〉

1. 左ボデーカバーを取外す
2. スクリューを緩めエアクリナーカバーを取外す
3. エアクリナーエレメントを取外す
4. エレメントの汚れを点検し、清掃する。汚れがひどい場合は交換して下さい

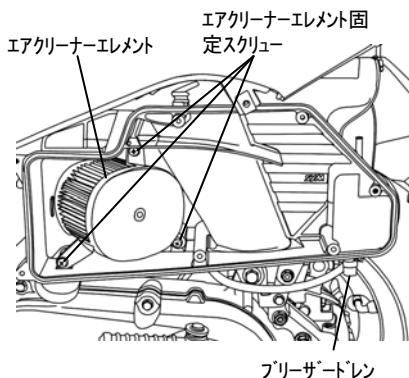
〈取付手順〉

- 取外しの逆手順にて取付けをして下さい

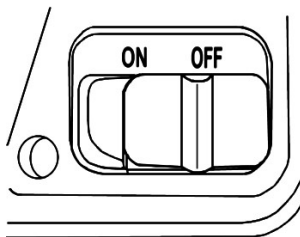
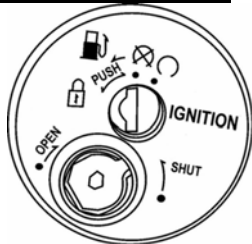


⚠️ ご注意！！


- エアクリナーが正しく装着されていないとゴミや汚れを吸込んでシリンダーの磨耗や出力低下を起し、エンジンの耐久性に悪影響を与えますので確実に取付けて下さい
- 洗車する時にエアクリナーが濡れるとエンジンが始動できなくなる恐れがあります
- エアクリナー後方にブリーサードレンがありますので、1000km 毎に堆積物を排出して下さい

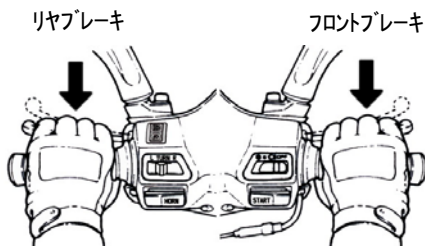
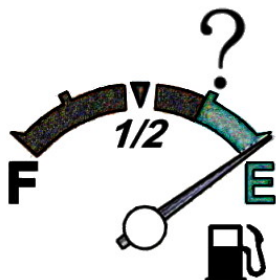


エンジンが始動しないとき



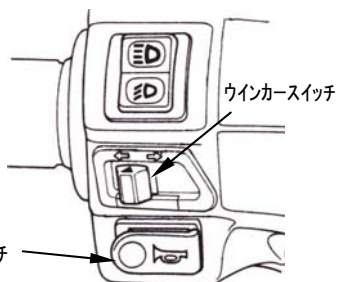
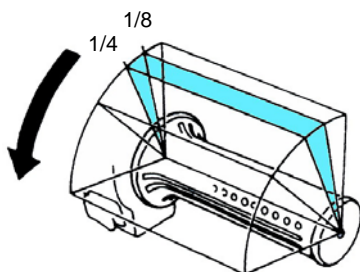
1. メインスイッチは“ON”位置にありますか？

2. 防盜スイッチは“OFF”か“”位置ですか？



3. ガソリン残量は充分ですか？

4. セルボタンを押す時に前または後ブレーキをかけていますか？

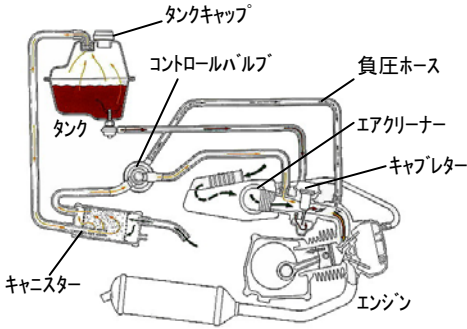


5. セルボタンを押しながら、スロットルを回し過ぎていませんか？

6. メインスイッチを“ON”位置にしてホーンボタンを押して下さい。ホーンが鳴らない場合はヒューズが切れているかもしれません。

上記に該当するところが無くエンジンが始動しない場合はお買い求めのSYM 特約店にご相談下さい

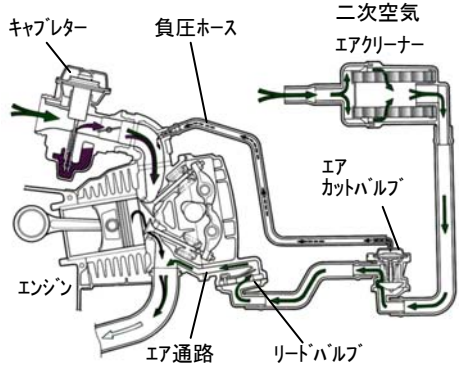
蒸発ガスコントロールシステム



システム:

ガソリンタンク内の蒸発ガスは蒸発ガスコントロールシステム内の各パイプに流れ込み大気中に放出されないようになっています。蒸発ガスはキャニスターに導かれキャニスターの炭素粒子に一時的に吸収され、エンジン始動後に負圧により燃焼室内に導かれます。

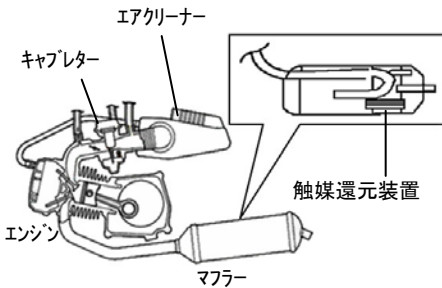
二次空気供給システム



システム:

エンジン排気管内に二次空気を導入する事により、未燃焼ガスを再度排気管内で燃焼させ、CO・HCは無害のCO₂、H₂Oとして排出される。

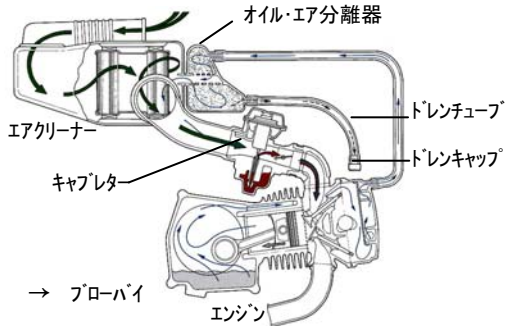
触媒還元装置



システム:

触媒還元装置はマフラー内にあり、不完全燃焼ガスのCO、HC、NO_xはマフラー内の触媒による反応により無害のCO₂、H₂O、N₂に還元されて排出される。

プロパイガス還元システム



システム:

エアクリーナーに取付られたオイル・エア分離器にエンジンからのプロパイガスが流れ込みます。分離されたエアはエンジン負圧により、エンジンに吸い込まれ燃焼される。オイルはドレンチューブ内に溜まるので、定期的に抜いて下さい。

⚠️ ご注意！！

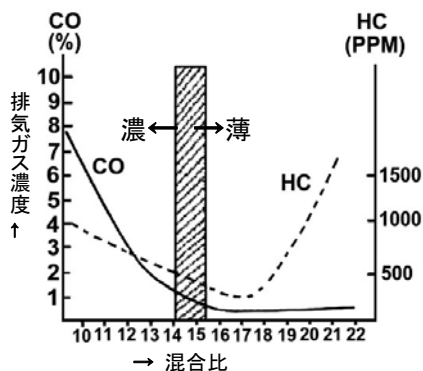
- 必ず無鉛レギュラー以上のガソリンを使用して下さい。粗悪ガソリンは触媒を傷めます。
- 下り坂等でキーOFFのまま走行する事はやめて下さい。触媒に損傷を与える恐れがあります。

排気ガス中の環境汚染物質：ガソリンの不完全燃焼はCOとHCを発生させる大きな要因で、ガソリンの浪費にもつながります。車両の性能維持と排気ガスの減少、ガソリンの節約のためにも定期的な点検とメンテナンスが大変重要です。

1. エアクリナーの清掃と交換：
エアクリナーはシンダーに吸い込まれる空気のコリや汚染物質をろ過する役割をしています。汚れていては空気はスムーズに流れません。通気性が悪いと空気量が減り、混合気が濃くなり不完全燃焼し、パワーダウンや燃費の悪化、排気ガス濃度の上昇を起こします。こまめに清掃し、清掃しても通気性が確保できない場合は交換して下さい。また交換する際は必ずSYM純正エアクリナーを使用して下さい。純正以外では適正な性能を維持できない恐れがあります。
2. キャブレターの調整と交換：キャブレターの調整が悪いとガソリンと空気の混合比率が濃すぎたり、薄すぎたりして不完全燃焼を起こし、パワーダウンや燃費の悪化、排気ガス濃度の上昇をおこします。
キャブレター不良の主な原因：
(1)キャブレター油面：油面は規定通りに調整して下さい。
(2)チューク不良：
(3)キャブレター詰り：汚れによりエア通路、ガソリン通路が詰まると空燃比が狂います。清掃し、それでも詰りが解消出来ない場合は交換して下さい。
3. 点火プラグの清掃、調整と交換：
点火プラグの汚れを清掃し、キャップを調整します。電極に磨耗や異常がある時は交換して下さい。不良なプラグは不完全燃焼や燃費の悪化、パワーダウンを招きます。
4. ハルブクリアランスの調整：
ハルブシートの磨耗、密閉不良、ハルブクリアランスの調整不良は不完全燃焼の原因となります。定期的に点検調整をして、磨耗している場合は交換して下さい。また、ハルブクリアランスの調整は正確に調整されていなければなりません。
5. オイル交換時は上限を超えない：
オイル量が過剰な場合、燃焼室までオイルが上がり炭素が溜まります。混合気の燃焼に影響し、パワーダウンや燃費の悪化を招きます。
6. 点火時期は確実に合わせて下さい：
強力な火花で完全燃焼するとエンジンパワーは大きくなり、ガソリンの節約、排気ガスの減少につながります。異常時はCDIユニットを交換して下さい。
7. エンジンの老化や磨耗はガソリン浪費につながります。部品の点検を受けて下さい。
8. 燃費節約のポイント：
(1)暖機運転を行ってから走行して下さい。
(2)不要な急加速、急ブレーキはおやめ下さい。
(3)停車時は早めに減速して、急ブレーキは避けましょう。
9. 点検調整を受けた車両は最高の状態になっています。加速がスムーズになり力不足に感じるかもしれませんが、ガソリン節約と環境汚染減少につながっていますので、元に戻さないで下さい。

CO	HC	原因
高	正常	ガソリンと空気の混合比率が濃い
正常	高	1. 点火系統不良： <ul style="list-style-type: none"> ● 点火タイミング不良 ● プラグの汚れ、キャップ不良 ● C.D.I.点火ユニット不良 ● 点火コイル不良 2. エキゾーストバルブ磨耗 3. シリンダー磨耗
低	高	1. 混合気が濃すぎ、薄すぎで点火不良 2. エア漏れ： <ul style="list-style-type: none"> ● 負圧チューブ漏れ ● インレットパイプ漏れ ● 点火プラグガスケット漏れ
高	高	1. エアクリーナー汚れ 2. キャブレター不良： <ul style="list-style-type: none"> ● 混合気が濃すぎる ● フロート油面不良 ● チョーク不良 ● アイドルスクュー、ニードルバルブ磨耗 3. PCVバルブのゆるみ 4. 触媒還元装置の劣化

排気ガス異常の原因
1. エンジンオイル過剰 2. オイルポンプ調整不良又は不良 3. 粗悪オイル又は低質オイルの使用 4. エンジンの老化、磨耗 5. 長時間の低速使用(時速 20~30km/h 以下) 6. マフラー内のカーボン堆積による汚れ



項目	メンテナンス キロメートル	メンテナンス期間					備考
		300KM	1000KM毎	3000KM毎	6000KM毎	12000KM毎	
チェック項目	メンテナンス期間	新車時	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	
1	エアークリーナーエレメント (備考)	I		C	R		
2	オイルフィルター (スクリーン)	C			C		
3	エンジンオイル	R	I	3000KM毎交換			
4	タイヤ空気圧	I	I				
5	バッテリー	I	I				
6	スパークプラグ	I		I		R	
7	キャブレター (アイドリングスピード)	I			I		
8	ステアリングベアリング、ハンドル	I		I			
9	トランスミッションの漏れチェック	I	I				
10	クランクケースの漏れチェック	I	I				
11	トランスミッションオイル	R	5000KM毎交換(5ヶ月)				
12	ドライブベルト/ローラー				I	R	
13	ガソリンタンクスイッチ、ライン	I		I			
14	スロットルバルブ操作、ケーブル	I	I				
15	エンジンボルト、ナット	I		I			
16	シリンダーヘッド、シリンダー、ピストン				I		
17	排気システム、クリーニングカーボン				I		
18	カムチェーン/イグニッションタイミング	I		I			
19	バルブクリアランス	I			I		
20	ショックアブソーバー	I			I		
21	前、後サスペンション	I			I		
22	メイン/サイドスタンド	I			I/L		
23	クランクケース、ブローバイシステム (PCV)	I		I			
24	クーラント	I	I			R	
25	クーリングファン、ライン	I	I				
26	クラッチディスク				I		
27	ブレーキメカニズム/ブレーキライニング (パッド)	I	I				
28	各コンポーネントボルト/ナット	I	I				

☆上記メンテナンススケジュールは 1000km 毎を参照ベースとして立てられています。

※車両を適正な状態に保つ為に SYM 正規代理店または取扱店に持ち込み、定期的チェックと調整を受けてください。

コード: I 点検 A 調整 R 交換 C 清掃 (必要に応じて交換) L 給油

備考: 1. ほこりっぽい道、環境汚染のひどい地区での走行車両はエアークリーナーエレメントの洗浄、取替えは、より頻繁にしてください。

2. 頻繁に高速走行したり、総走行距離数が高い場合はメンテナンスをより頻繁にして下さい。

【備考欄のノートは適用モデルを表記しています】

注1: 高速運転、高負荷運転や短距離走行が多い車両は 1000km 毎にオイル交換をして下さい。

注2: 環境温度が 3°C 以上なら SAE 85W-140, 3°C 以下であれば SAE 85W-90 を選択して使用して下さい。

12. 定期点検スケジュール

項目	GT 125	GT 125EFi
	HM12VA	HM12VB
全長/全幅/全高(mm)	1,810 / 700 / 1,075	
ホイールベース/シート高(mm)	1,215 / 740	
重量(kg)	105 kg	
最小回転半径	1.8 m	
ヘッドライトバルブ (ハイ / ロー)	12V 35W / 35W x1 (HS1)	
ポジションライトバルブ	1.7W x2	
テール / ブレーキライトバルブ	LED	
前 / 後ウインカーライトバルブ	12V 10W x4	
ウインカーハイドロランプバルブ	12V 3.4W x2	
メーター照明バルブ	12V 1.7W x2	
ハイビームハイドロランプバルブ	12V 3W x1	
ヒューズ	15A x2	20A x1 15A x2 10A x1
バッテリー型式/容量	TTZ10S(密閉式メンテナンスフリーバッテリー)/ 12V 9Ah	
スパークプラグ (オリジナルプラグ)	CR7 HSA	
フロントブレーキ	ディスク (Ø180 mm)	
リアブレーキ	ドラムタイプ(Ø110 mm)	
タイヤサイズ (前/後輪)	100-90-10 56J	
タイヤ空気圧(1人乗車時)	前輪 1.75 kg/cm ² / 後輪 2.00 kg/cm ²	
タイヤ空気圧(2人乗車時)	前輪 1.75 kg/cm ² / 後輪 2.25 kg/cm ²	
エンジン方式	4サイクル/2バルブ/単気筒/強制空冷エンジン	
総排気量	124.6 cc.	
最大出力	9.8 ps / 7,500 rpm	
最大トルク	1.01 kg-m / 6,000 rpm	
登坂能力	28° 以上	
点火方式 / 圧縮比	C.D.I. / 10.5:1	ECU / 10.1:1
エンジン回転数 (アイドルリング)	1,700 ±100 rpm	1,750 ±100 rpm
始動方式	セル&キック式	セル
燃料タンク容量	5.5 公升 (無鉛レギュラーガソリン)	5.0 公升 (無鉛レギュラーガソリン)
エンジンオイル容量	1.0L (交換時 0.85L)	0.75L (交換時 0.65L)
トランスミッションオイル容量	110 cc. (交換時 100 cc.)SAE 85W-140(寒冷地:85W-90)	



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。